

平成26年度全国学力・学習状況調査の結果概要

学校における子どもたちへの教科指導の充実や学習状況の改善などに役立てることを目的として、毎年全国の公立小学校6年生および公立中学校3年生を対象に学力や生活習慣、学習環境について調査を行っています。今年度は、4月22日に行われました。その調査結果をお知らせします。

なお、今年度から、学校ごとの「全国学力・学習状況調査」結果概要について、小平市ホームページおよび各校のホームページで公開しています。平均正答率や回答率については数値で具体的に公表するものではありませんが、国語、算数・数学、生活や学習環境に関する調査結果から「状況の分析」、「明らかに変わった課題」および「学校で取り組む具体的な改善策」についてご覧いただけます。ぜひ、こちらもご確認ください。

〈指導課〉

教科に関する調査

教科名	平均正答率 (%)			
	小平市	東京都	全国	
小学校	国語A	76.2	75.5	72.9
	国語B	58.8	57.2	55.5
	算数A	81.0	79.4	78.1
	算数B	64.4	61.2	58.2
中学校	国語A	81.2	80.7	79.4
	国語B	53.0	53.2	51.0
	数学A	69.3	68.8	67.4
数学B	63.2	61.8	59.8	

注) A: 主として知識に関する内容
B: 主として活用に関する内容

〈結果〉

小平市の小・中学校の平均正答率は、おおむね全国および東京都の平均正答率を上回っています。

〈分析〉

各問題について分析した結果、「文章や資料を目的や意図に応じて読み取る力」、「複数の内容を関係付け、自分の考えを文章として記述できる力」、「事象を数学的に捉え、説明・表現できる力」に関する問題が、他の問題と比べて、正答率が低く、課題があることが分かりました。これらの課題の解決に向け、指導方法の工夫・改善に継続して取り組んでいきます。

基本的な生活習慣や学習環境などに関する調査

質問	「はい」と答えた子どもの割合 (%)	全国		
		小平市	東京都	全国
生活習慣について	朝食を毎日食べていますか。	97.0	96.4	96.0
	毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	86.1	79.5	79.2
	毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	92.1	90.8	90.9
	授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていますか。	84.9	83.7	83.7
学習環境について	授業では、話し合う活動をよく行っていますか。	87.9	84.1	84.9
		80.1	74.4	75.3

〈結果〉

生活習慣、学習環境ともに、おおむね全国および東京都の平均を上回っています。

〈分析〉

家庭における望ましい生活習慣の積み重ねや、学校における言語能力の向上を図る積極的な取組が、子どもたちの学習環境をよりよいものに整え、学力を向上させていると考えられます。今後も子どもたちの学力を伸ばし、よりよい学習習慣を身に付けさせるために、学校と家庭とが認識の共有を図りつつ、連携を大切にしていきたいと思います。

こだいら「いじめゼロ」メッセージ

小平市、教育委員会、学校、家庭、地域など、わたしたち子どもを取り巻く大人は、いじめ問題に対して、次のような姿勢で取り組みます。

～いじめは絶対に許されない～

場合によってはいじめも許されることがあるという意見もあります。児童・生徒へのアンケートによると、小平市でも「状況によってはいじめが許される場合もある」と、いじめを容認する答えが見られましたが、いじめはどんな理由があっても決して許されることではありません。この鉄則を子どもも大人も認識し、いじめを見過ごしたり放置したりすることなく、いじめを許容しないことが肝要です。

～いじめの要因・背景にも目を向ける～

いじめは絶対に許されることではありません。しかし、起きてしまったいじめには必ず要因や背景があるはずで、いじめを行った児童・生徒へ毅然とした指導を行うとともに、いじめを生み出す土壌や要因、雰囲気になかったかなど、いじめが起きたメカニズムの分析やいじめを行った児童・生徒への事後対応にも配慮していきます。

～地域社会総がかりで取り組む～

小平市の小・中学校には、学校支援ボランティア、青少年対策地区委員会、民生委員・児童委員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーなど多くの大人が関わっているのが特徴といえます。この特徴を活かし、関係者、関係機関が連携した取組を進めます。家庭では、他人の痛みを自分のこととして受け止める心や、社会生活のルール、マナーを守る大切さを教え、いじめは許されない行為であることを、十分理解させるように努めます。

～小・中連携により児童・生徒が主体的に取り組む～

小平市では小・中連携教育が充実してきました。「こだいら共通プログラム」の視点の一つに「健全育成の推進」が挙げられています。いじめの防止においても、中学校区を単位として小・中連携により、児童・生徒自らが考え、行動を抑制できる主体的な活動を取り入れていきます。

～ささいなケースも見逃さない～

小平市は、平成24年度に行われたいじめの実態調査で、多くの件数を報告していますが、解決の割合も高い結果となっています。このように、ささいなケースを黙認したり看過したりすることなく、いじめの兆候がある場合には、組織的にきめ細かく対応し、早期発見・早期対応によりいじめの芽を摘んでいきます。

いじめは絶対許さない

小平市いじめ防止基本方針の策定

いじめ防止などの対策を市としてより総合的かつ効果的に推進するため、いじめ防止対策推進法や東京都いじめ防止対策推進条例などに基き、「小平市いじめ防止基本方針」を策定しました。この基本方針は、いじめ問題への基本的な考え方、市や学校の取組を明確にするものです。市、教育委員会、学校、家庭、地域、その他関係機関が連携を強め、こだいら「いじめゼロ」メッセージを基本姿勢に、いじめの防止などのための対策をより推進していきます。なお、この基本方針の全文は、小平市ホームページでご覧いただけます。〈指導課〉

小平第三中学校教諭に小平消防署から感謝状が贈呈されました

10月15日(水)朝8時頃、福原諒教諭は、通勤途中の路上において、突然倒れた男性を発見し、心臓マッサージを行いました。その結果、男性は一命をとりとめ、現在回復に向かっています。この功労に対して小平消防署より感謝状が贈呈されました。小平消防署から「進んで救急救命の知識と技術を身に付けたこと」と、「勇気をもって実践したこと」の2点が素晴らしいとお話がありました。三中では毎年2年生を対象に救急救命の体験授業を行っており、正しい知識の大切さと行動する勇気について、福原教諭からも全校生徒に呼びかけました。



〈感謝状を贈呈される福原教諭(左)〉

情報モラルを育むために

〈第3回〉

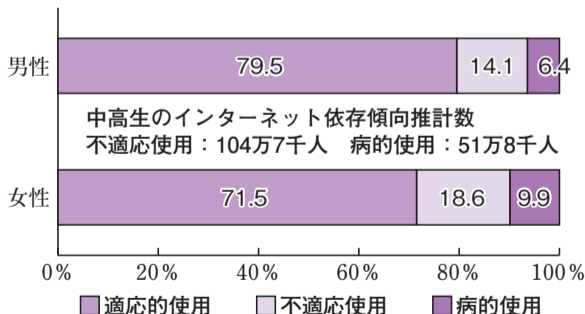
子どもたちのICTに関する問題の一つ「ネット依存」

近年のスマートフォン(スマホ)などの普及に伴い、いつでも手軽に情報が得られる世の中になりました。一方で無料通話アプリやソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)、オンラインゲームなどの長時間の利用により、子どもたちの生活習慣の乱れやネット依存の問題も生じています。今回はこのネット依存について考えていきます。

◆ネット依存とは

ネット依存とは、厚生労働省によるとネットの使い過ぎで健康や暮らしに影響が出る状態のことです。食事を取らなくなり、栄養失調になるほど依存が進むこともあります。現在は、病気とは定義されていません。

ネット依存のこうした傾向は、子どもたちの間でも広まっており、全国で、約52万人の中高生がネット依存であると推定する調査があります。左の棒グラフの「病的使用」がネット依存の数値を表します。



〈大井田隆ほか(2013)「未成年の喫煙・飲酒状況に関する実態調査」をもとに(株)情報通信総合研究所が作成)〉

◆ネット依存により引き起こされる問題
ネット依存は、身体面、精神面、学業面をはじめ家族関係や対人関係にまで、さまざまな影響を及ぼします。

身体面	精神面	学業面	経済面	家族関係	対人関係
視力低下・運動不足・腰痛・骨密度低下・栄養の偏り・エコノミークラス症候群など	昼夜逆転・睡眠障害・ひきこもりなど	成績低下・遅刻・授業中の居眠り・留年・退学など	浪費・親や友達のお金を盗むなど	嘘をつく・家族への暴言・暴力・友人関係悪化など	孤立化など

〈独立行政法人 国立病院機構 久里浜医療センター〉

◆ネット依存の予防法

ネット依存にならないようにするためには、利用状況を把握した上で適切な利用をするためのルールづくりが必要です。そのためには、学校、家庭、地域で子どもの様子を見守りながら、同じ目線で情報モラルを育むことが大切です。

◆終わりに

小平市では、各学校において、セーフティ教室や、電話会社などからゲストティーチャーを迎える「ケータイ教室」など、インターネットの危険性や安全な利用方法について学び、情報モラルを幅広く時間を設けています。教科の授業においても小学校5年生の社会科や中学校の技術科などにおいて学習します。手軽で便利のために、インターネットに頼ってしまうことが多いのですが、利用のメリットとデメリットを両面を理解し、適切に利用できるように、ご家庭でも話し合ってみてください。

参考 文部科学省委託事業
「情報化社会の新たな問題を考えるための教材」平成26年3月31日
〈株〉情報通信総合研究所